

メンバー、ボランティア、学生
みんな仲間!

平成 28 年 8 月号

けやきと仲間 めーる



こころの病と闘っている人々と千葉大学生や周囲地域との協働の会 地域活動支援センター「けやきと仲間」

平成 28 年 8 月 1 日(第 136 号)

7月8日(金)バーベキュー大会 22名の参加がありました。



スタッフとボランティアの車で食材等を運んで、例年通り稲毛の浜海岸に付いたのは10時半、現地集合の皆で荷物を運びました。火起こしする人、野菜を切る人などの分担も慣れたものです。曇り空でしたが、十分暑かったです。実習生といっぱい食べて、いっぱい話して、いい思い出がたくさんできました。また来年も行きたいですね。

6月29日(水) 日帰り研修(東京都中部総合精神保健センター)に参加しました。

9時40分頃に世田谷区上北沢の目的地に到着しました。精神保健福祉法でのセンター業務(知識の普及や調査研究等)に続いて、法律で定められていないが東京都単独で行われている事業の説明がありました。

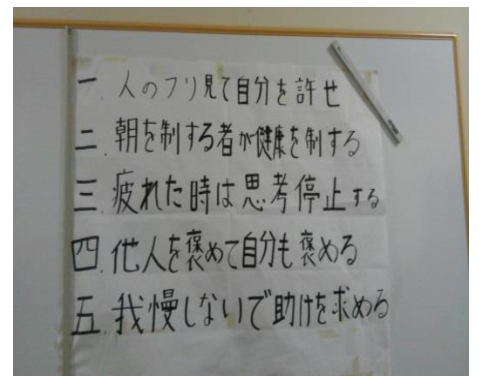
・生活訓練科(作業訓練、デイケア)

各障害によって、在職中、就労支援、就学支援に分けられている。コミュニケーション力をつけることに重点をおいている。そのことが日常生活に適應することにつながる。

・地域支援課(アウトリーチ、ショートステイ)



以上のようなことを学んでから、ソフトバレーボールの練習や、作業訓練室の様子を利用者の方たちを見ることができました。もちろんプライバシーを尊重した上での施設内見学となりました。短期宿泊施設では、トイレ、洗面所、炊事室、浴場は共同ですが、ひとりの時間を保障してくれるための個室には十分な広さがあり、自然に恵まれた窓からの景色は、都会に在ることを忘れさせてくれる感じでした。自炊を始めたい人、料理に挑戦したい人への配慮が行き届いていました。また、通路の掲示板に、病気や障害への「対処方法」を記したお手製のポスターを見つけて思わずカメラのシャッターを切りました。



休憩後は、「私たちのより身近なこととして」という私たちの希望に沿って、地域支援課の係長と質疑応答の時間を設定してくださいました。「地域の保健所などとの連携により、地域で暮らすことが困難な障害者を支援することを目的としています。時にはよっては一時入所を進めるが、本人の意向を最優先しています」と強調されていました。入所者の支援には精神保健福祉士が大きな役割を果たしていることがうかがえました。地域の保健所が支援を行っている中で、困難な状況などと判断された時に、センターに依頼してくることが多く、医師や看護師などの職種がチームを組んで個別に対応するシステムとなっています。



昼食もそのまま研修室でゆっくりいただくことが出来ました。そして、私たちを乗せたバスが出るときにも手を振って見送ってください、本当に心温まる対応に感謝です。

「千葉県とは全然違うことに驚きました」、「三ヶ所もセンターがあるなんてすごい。病院に例えれば、身近な地域のクリニックで対応しきれないことを、大病院で対応してくれる、そんな連携が感じられた」、「千葉県に一ヶ所でも欲しい」、「そして新しい発見ができたり、リフレッシュできたりした貴重な一日だった」等々の感想が聞かれました。帰りに寄ったお台場でのんびりしてきました。



川柳

片腕で九十八まで生きた祖父
 戦争で良くなることはまるでなし

激痛と闘ってたら盲腸だ

人の顔覚えられずに落書きを

川柳が思いつかずにもちを食う

憧れの六十一の剣山